

無意識コミュニケーション

～図解：無意識コミュニケーションの手引き書～

個人的現実にはシナリオがあります。

それが今までの自分を作り出してきました。

個人的現実は変えられます。

新しいシナリオが新しい自分の体験を創ります。

他人との関係は変えられます。

お互いが作り出した物語のシナリオを変えることで。

生きづらいと感じるのには…
理由があります。



本当の自分を生きていない違和感に気づいてますか？

自分を制限しているものがあることに…

行動や体験を歪めてしまっているものがあることに…

無意識下に存在するブレーキに気づいていますか？

もうブレーキはいらないと感じるならば、

もっと自由に… もっと自分らしく…

本来の自分を解放してみませんか？



無意識コミュニケーションとは…

人間を動かしている「無意識システム」への

意識的なアプローチ方法のことをいいます。

それは… 本当の自分を取り戻すための方法です。

本来の自分を解放するためのスキルです。

**あなたの人生における体験を創り出しているものは…
あなた自身の無意識システムです。**

人間には深層意識と呼ばれる全体自己があります。

そこにはこの人生のテーマ、そしてそれを体験するためのデザインが存在しています。

そこには本来の自分が、自分の望みが存在しています。

やりたいことがわからない…

将来が不安でしょうがない…

生きていることが辛い…

何をやってもうまくいかない…

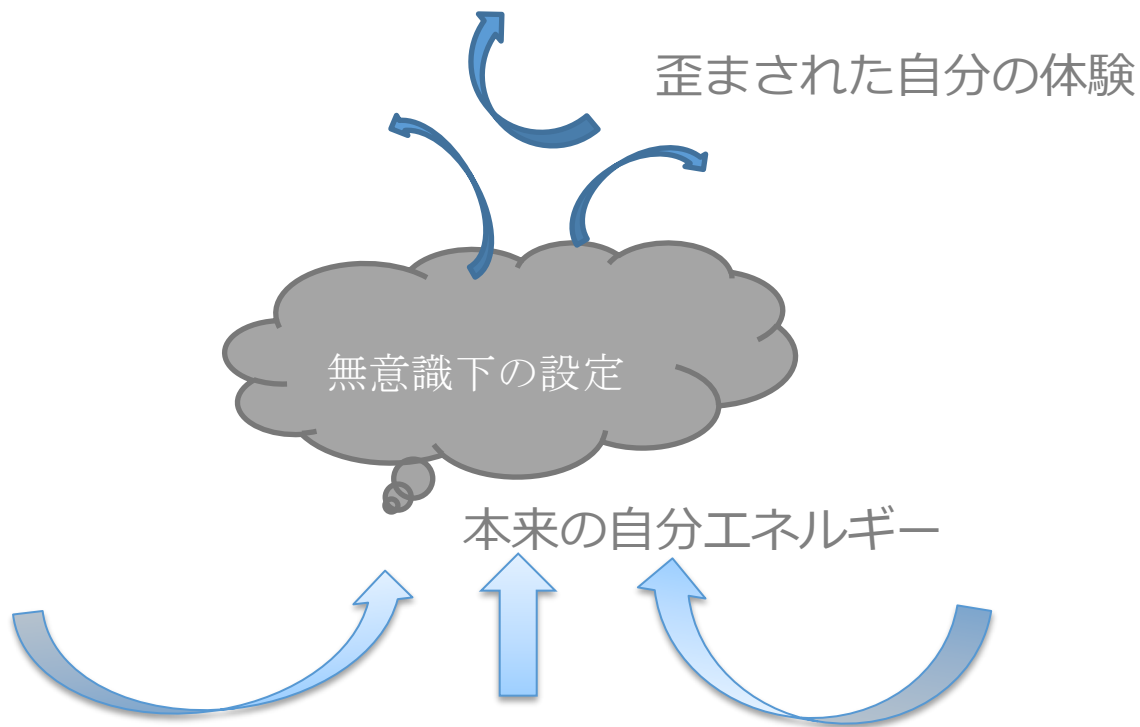
これらはすべて自我と全体自己との方向性の不一致から生じています。

コミュニケーション不足といってもかまいません。

じゃましているものは無意識システムにある歪みです。

無意識下にプログラムされた「不適切な設定」が本来の自分のエネルギーを歪めています。

それは勘違いのうえに成り立った「私の物語」です。



もしあなたが今まで通りの再現が繰り返されていくことに嫌気がさしているというのなら…

新しいステージに進みたければ…

過去でもなく、未来でもない、今という瞬間に変えるべきことがあります。

次なるステージへ進むために変化させる必要があるもの…

それは無意識システムにプログラムされた設定です。

役に立たなくなった時代遅れの設定です。

いわば、無意識設定は自分の物語を創りあげている脚本です。
無意識下にある脚本が今の自分の体験を創り出しています。
その脚本が変わることによって人が演じる役柄は変わります。



脚本は書き換えられます。物語は選択できます!!



食べ過ぎるのは…

心の声で食べるからです。

それは無意識の設定から作られている衝動です。

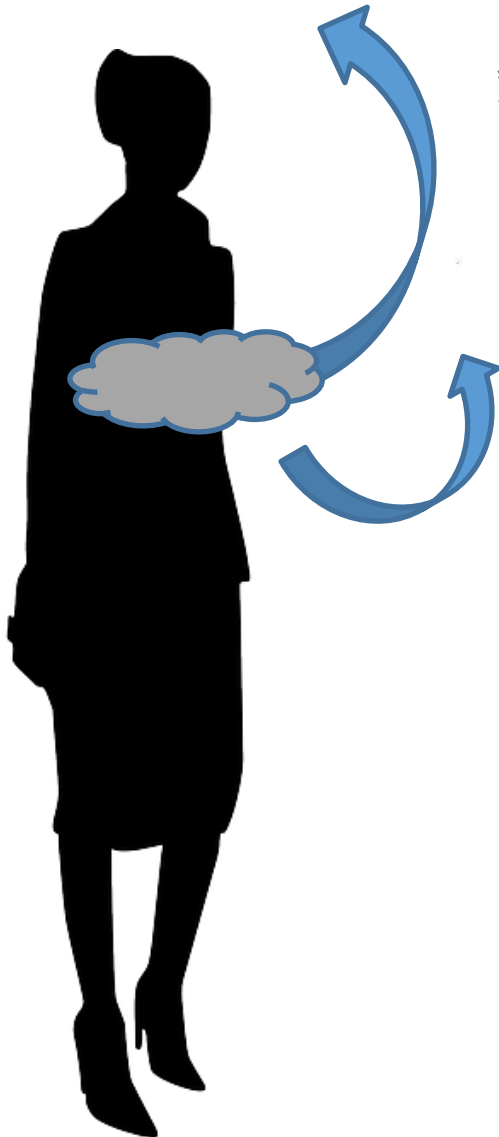
身体の声が聞こえますか？

もっともっと…は心の声です。

身体はバランスを求めています。

過食は…

無意識システムの問題です！





- ✓ 自信がない。
- ✓ 自己嫌悪が強い。
- ✓ 罪悪感がある。
- ✓ 過食してしまう。
- ✓ すぐに不安になる。
- ✓ 運が悪いと思っている。

自分の無意識システムへのコミュニケーションが必要です。

自分への意識的な無意識コミュニケーションを始めてください！



- ✓ 人間関係が苦手。
- ✓ 他人に巻き込まれて疲れる。
- ✓ 他人からの評価が気になってしかたない。
- ✓ 子育てや家族との関係に疲れている。
- ✓ パートナーに恵まれない。

人間関係に存在するエネルギーゲームに気づいてください。

他人への意識的な無意識コミュニケーションによって人生の主権と自由を取り戻してください。

ー前半目次ー

基本は【無意識の仕組み】を理解する p10

無意識の仕組みと方程式

①自分の体験を制限している無意識設定 p13

②無意識システムの方程式 p16

自分自身への無意識コミュニケーション p23

①自分のセルフイメージに気づいてますか？ p27

②イメージが現実を創造しています p28

④セルフイメージは日々のコミュニケーションが創る p32

⑤無意識コミュニケーションが作る「呪い」を「祝い」 p34

他人への無意識コミュニケーション

1.人間関係で行われているコミュニケーションに気づく p43

①エネルギーゲーム p48

②コントロールゲーム p52

③親との関係性によって作られたゲーム設定 p53

—後半目次—

2.人間関係における主導権を持つ

- ①他人の無意識を読み解く p 60
- ②他人の無意識からのメッセージを受け取る p 62
- ③他人への意識的な無意識コミュニケーションとは p 64
- ④トランス実験でわかること p 68
- ⑤人を動かすとは p 75
- ⑥他人への「呪い」と「祝い」 p 77

現実創造と無意識コミュニケーション

- ①実現とは自分の無意識システムが投影された成果です p 84
- ②自分への無意識コミュニケーションによる全体自己との一致 p 88
- ③現実を変えたければ自己と調和すること p 90
- ④次元の仕組みを知ることが自己実現を加速させる p 91
- ⑤全体像を知ると目の前が見えてくる p 92
- 最後に p 95

基本は【無意識の仕組み】を理解する！

無意識システムは通常の知覚では見えない内に存在しています。
だからふつうは意識できません。だから無意識です。

そして無意識だからこそ、さまざまな問題が生じています。

後で後悔するとわかっていながら止められない衝動。

過食や鬱などの原因のわからない行為や症状。

行動した後に自己嫌悪して、さらにそれを繰り返す負のループ。

望むことと正反対の言動をしてしまう…

それらはすべて無意識システムの中で自分を動かすプログラムによって起きていることです。

望むように行動できないのは無意識のプログラムのほうに主導権があるからです。

それが見えないことで…

無意識が作り出す流れに対して無力になってしまっています。

無意識システムにセットされたプログラムが現実化することに抵抗できなくなっています。

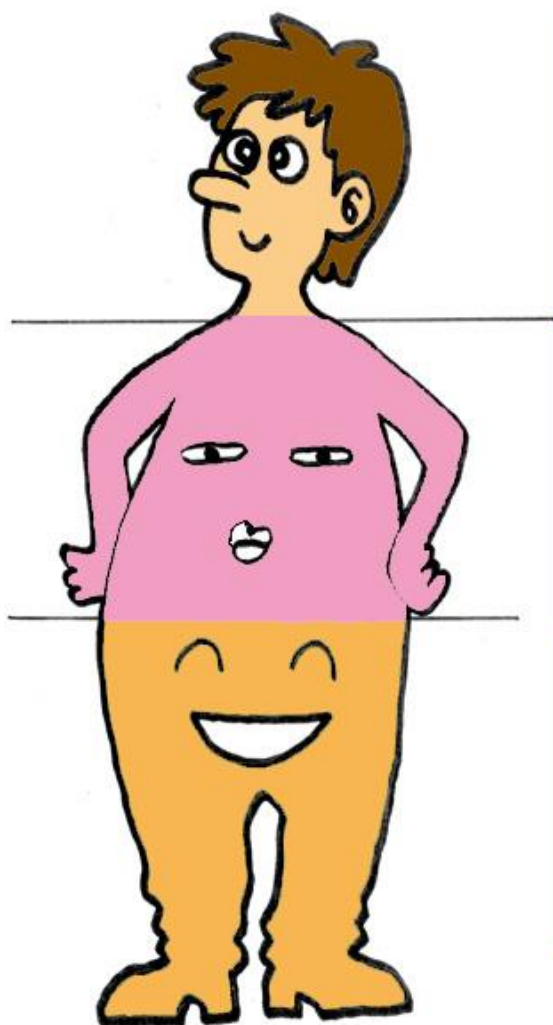
しかし実は…

無意識は意識化することができます。

無意識システムの仕組みを知ること。

無意識に意図的にアプローチすること。

それは可能です。



頭＝知覚

思考。

自分だと思い込んでいる部分。

意外と小さい。

無意識

心を含む反応でできている。

自分の行動の95%を作り出している
方程式が存在している。

深層意識 本質の自分

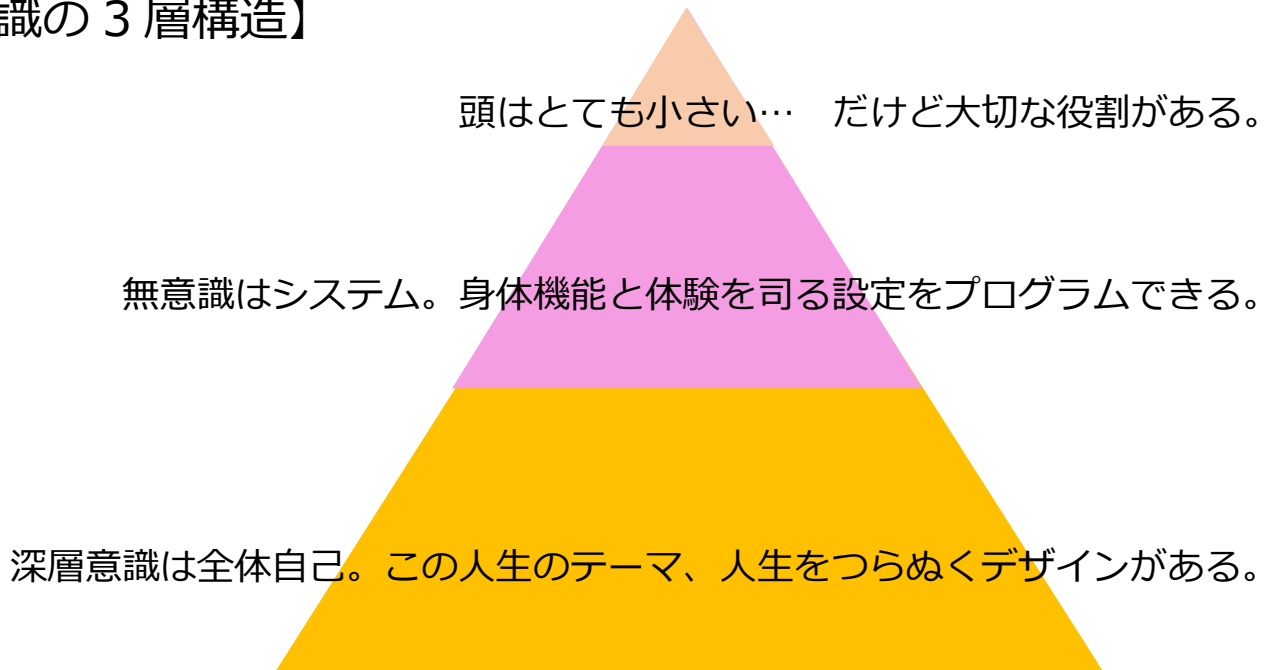
自我を超えた自己。

インスピレーションの根源。

大きい。果てしなく…

【人間の意識構造図】

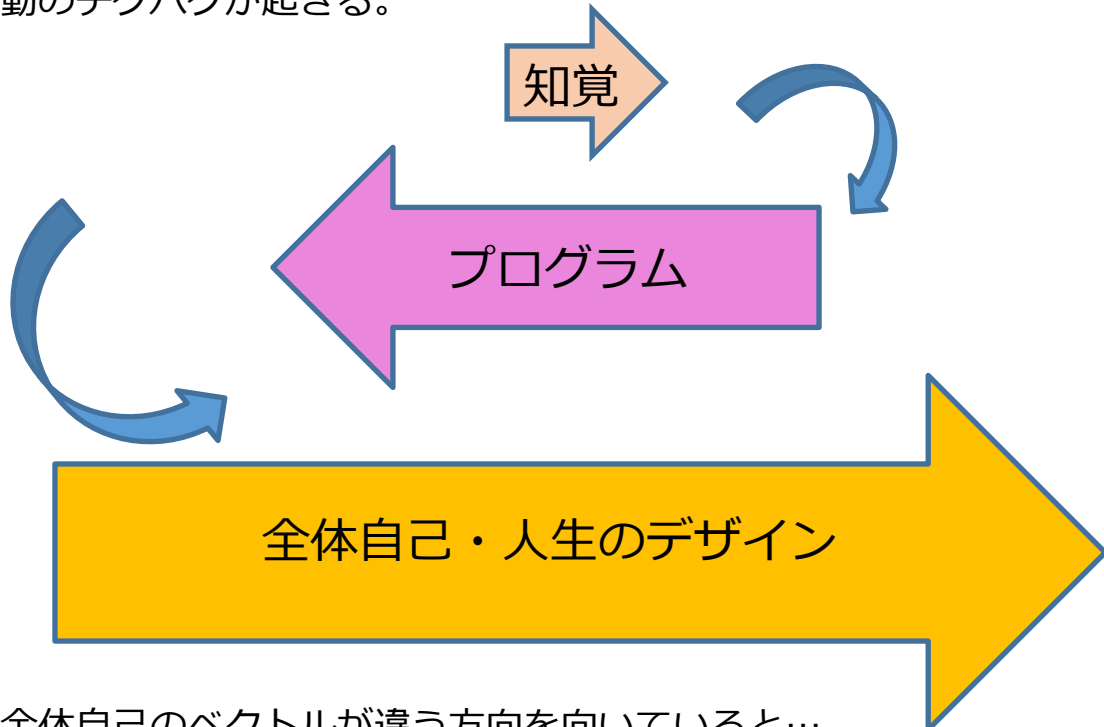
【意識の3層構造】



【意識のベクトルが揃うことの重要性】

頭と無意識のベクトルが反対を向いていると...

考えと行動のチグハグが起きる。



無意識と全体自己のベクトルが違う方向を向いていると...

心から満たされる人生が生きられない。

無意識の仕組みと方程式

①自分の体験を制限している無意識設定

人間の行動の95%は無意識において決定されています。

人間の反応のほぼ100%が無意識によって決められています。

なのに、ほとんどの人が無意識の仕組みを理解していません。

頭で考えたことがすべてだと勘違いしたままに行動しています。

だから自分自身の無意識システムに翻弄されます。

自分がどういった無意識設定で行動しているのかが見えれば…

自分を意識的に動かせるようになります。

他人がどういった無意識設定で行動しているのかが見えれば…

人間関係を意識的に動かすことが可能になります。

自分の無意識システムにセットされた方向性が見えれば…

自分に起きる体験を変えることが可能になります。

すべては無意識と全体自己の中ですでに起きています。

目の前に知覚する体験は、その結果に過ぎません。

そして実は、無意識システムは便利です。

それは非常に優れた肉体へのサポートシステムです。

無意識は決して敵ではありません。

問題は、システムにプログラムしてしまった内容なのです。

気づかないままにプログラムしてしまった設定です。

だから無意識システムの仕組みを知ってください。

そうすることで無意識システムは自分の味方になります。

非常に頼りになるかけがえのない味方となり得ます。

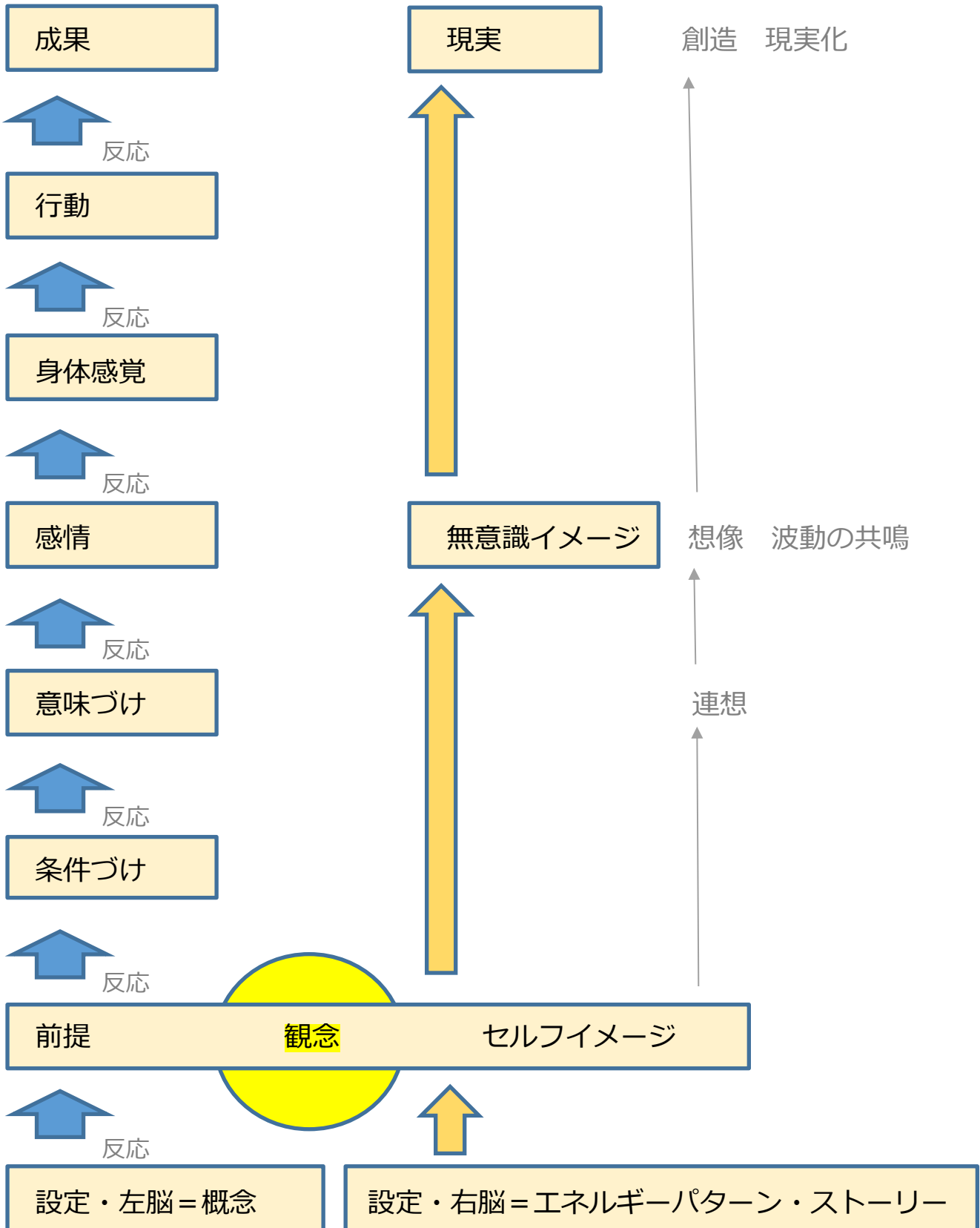
無意識を味方につける！



【無意識システムのフローチャート図】

無意識下には2つの流れが存在しています。

思考をベースとした左脳と、イメージをベースとした右脳の流れです。



②無意識システム内の方程式

成果…

体験していることのすべてが自分自身が創り出した成果です。



成果を作り出しているものは？

行動…

その成果は自分自身の行動の結果として作られています。

ところが…なかなか行動を変えることができません。

その理由は、行動は無意識によって決められているからです。



人間の行動は気分や衝動によって反動的に決められます。

身体感覚…

身体感覚とは無意識下のエネルギー状態を肉体を通して知覚している感覚です。

気分だけでなく恐怖感、倦怠感、食欲、衝動なども含まれます。



身体感覚を作り出しているものは感情エネルギーです。

感情エネルギー…

感情は自分を動かすモチベーションとなるエネルギーです。

それは頭で知覚できていない抑圧感情を含みます。

抑圧感情は食べ過ぎやさまざまな病気や問題を引き起こします。

*本講座においては感情エネルギーの本質と扱い方、分離意識と
もうひとりの自分、など感情問題に多角的にアプローチします。
抑圧感情が原因となる症状が非常に多いからです。
しかしその問題には明確な仕組みと解決法があります。



無意識下で分離した感情体が…
もうひとりの自分を創り出す。



感情エネルギーに方向性を与えているのは意味づけです。

意味づけ…

感情エネルギーを方向づけているものは意味づけです。

無意識内でつけられた意味に見合った感情を体験しています。



感情に方向性を与えるための無意識基準があります。

条件づけ…

意味づけを決めている無意識基準です。

「〇〇してはならない」「〇〇しなければならない」

といった自分を制限する目に見えない基準です。



観念・前提

自分が出来事や他人を、世界をどう見ているのか…

それを決めているものが無意識下のフィルタ = 観念です。

人間は自分の持った観念を通してしか世界や他人が見えません。

すべてがフィルタを通して翻訳されていることに気づきません。



無意識設定…

設定とは、プログラムの基礎です。

自分が気づかないままにセッティングしてしまった概念です。

自分にとってあまりにも当たり前で疑いようがありません。

何故なら信じ込んでいるからです。

したがって振り返ることも気づくこともできないままに無意識の奥に存在し続けています。

それがどんなに不適切な設定であっても…

それは思考パターンの原型となり、

セルフイメージの原型となり…

観念というフィルタを通して世界との関係を創り出しています。

それが無意識設定です。

* 無意識設定を見抜くためには左脳＝思考と右脳＝感覚を連携させる必要があります。頭だけではたどりつけません。

詳しくは本講座で実践してみてください。

【核となる設定と条件づけの例】

身体感覚：やる気が起きない…

条件づけ：人から認められなければならない…

イメージ：どうせうまくいかない…

条件づけ：人から嫌われてはならない…

誰かから愛されないと生きていけない…

設定とつじつまが合う

セルフイメージ：無力で弱い私…

例：私は無力である

核となる設定

無意識設定には核となる設定があります。

それは「前提」です。意識されないままの前提です。

それをエネルギーレベルでフィルタ化したものが観念です。

核となる設定の上にいくつもの小設定や条件づけが段階的に構築されています。

その小設定は核となる設定を前提として作られています。

核となる設定が消えると上にあるすべてが無力化していきます。

例 1.

行動・成果

いやと言えない 断れない ストレスがたまる

身体感覚・感情

そのためには人の期待に応えなければならない
他人の目が気になってしょうがない→いつも不安

条件づけ

だから何かで価値を証明しなければならない
誰かに認められなければならない→失敗してはならない

観念・セルフイメージ

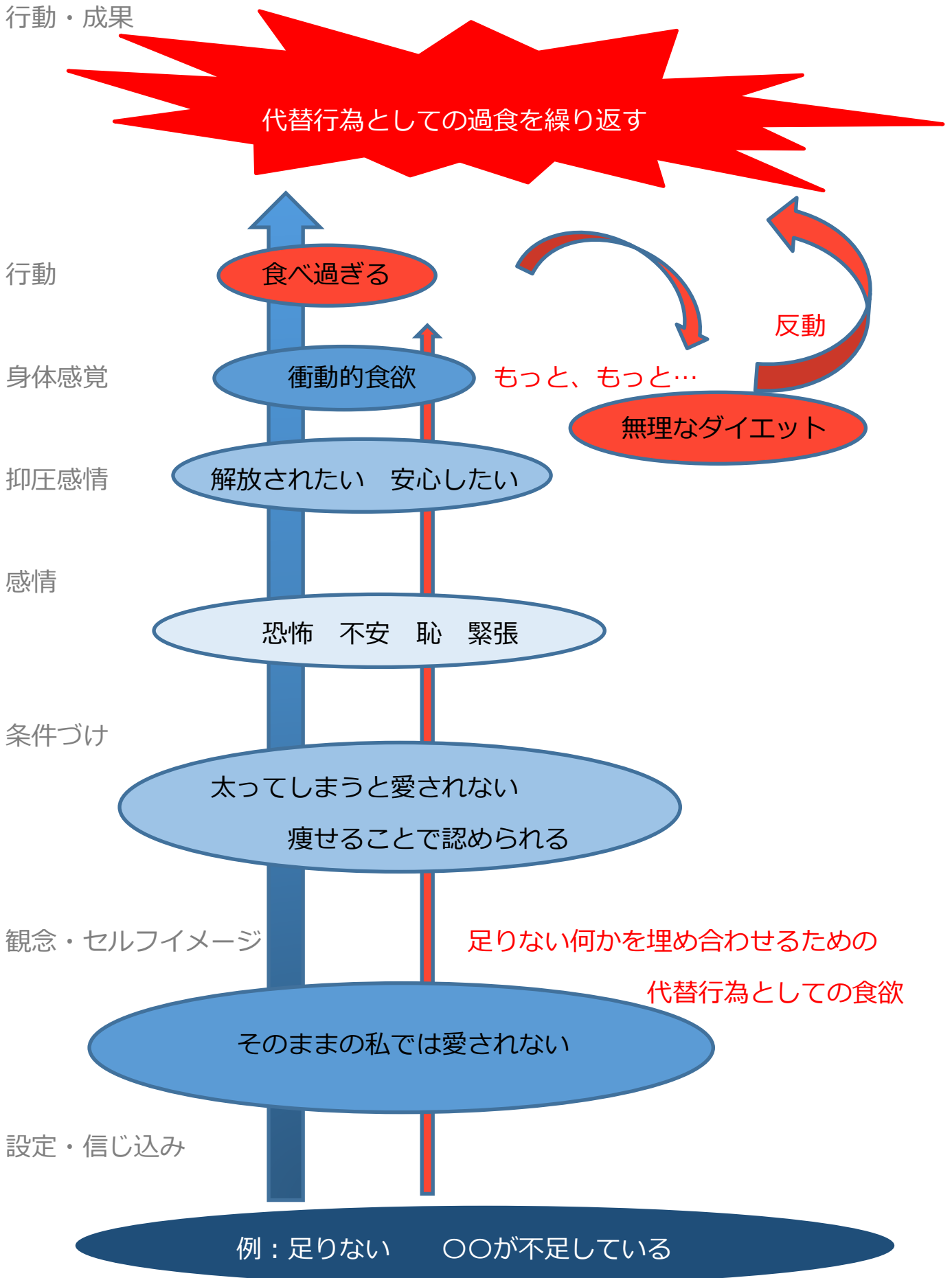
そのままの私では誰も認めてくれない

設定・信じ込み

例：私には〇〇がない

例 2.

行動・成果



自分自身への無意識コミュニケーション

自分の無意識システムへのアプローチには、

「今までの自分に気づくため」自分の内側を観察するための
内観的コミュニケーションと、
「なりたい自分のため」望ましい自分を意図する
意図的コミュニケーションがあります。

今までの自分の体験を作り出してきたのは無意識下にプログラムされている無意識設定です。

それに気づかなければ新しい自分へのスタートは切れません。

今までの体験の本当の原因を理解するためには、外側の世界に表現された結果だけに注意を向けるのではなく無意識下で起きている内側の反応に目を向けてあげる必要があります。

無意識システムの中に隠されたまま働き続ける**原因となる設定**に気づかなければ、同じ結果が繰り返されるからです。

無意識設定に気づいた上で**新しい自分を意図するコミュニケーション**を使ってください。

それが新しい設定としてプログラムされます。

自分に気づくための無意識コミュニケーション

気づきのためのコミュニケーションにおいては、無意識下に隠れている設定、そこから生まれるイメージや抑圧感情に気づくことがとても重要になります。

思考だけで答にたどり着こうとしないでください。

分かっているけど…知っているけど…

その通りに行動できない、結果がついてこない、何も変わらないといった人になります。

思考の中に答はないからです。

感覚だけに埋没しないでください。

独善的なひとりよがりになる場合があります。

また、感情が答えだと勘違いしてしまうと、嫌な感情から目を背けるため気づかないままに感情抑圧が起こります。

必ず思考と感覚の両方を連携させるようにしてください。

それが内観における無意識コミュニケーションです。

思考と感覚のハーモニー♪



自分の無意識設定を見抜くためには、思考と感覚をツールにして無意識システム内のナビゲーションとして使います。

そのための具体的な方法は本講座で体験してください。

なぜなら感情エネルギーの扱い方が苦手な人が多いからです。

感情というエネルギーに対する恐れがあると、それを抑圧したり回避するために思考も感覚もフラットに使えません。

【本講座での学びと実践ワーク】

①思考パターンと意識的な思考は違います。

思考パターンは無意識設定から生じた制限された思考です。

まずは新しい思考型と新しい視点を手に入れてください。

本講座の重要な目的は思考パターンのブレイクスルーです。

②感覚には無意識からの感覚と深層意識からの感覚があります。

それがごちゃ混ぜのままでは本質的直観は使えません。

その部分はワークと実践を通して身につけていただきます。

③感情に浸り込むことは、より設定を強化します。

感情をエネルギーとして取り扱うことができ初めて効果的な感情へのアプローチが可能です。

感情エネルギーを理解してください。恐れが激減します。

*昨今の、俗に言う「ゆるふわスピリチュアル」においては、思考そのものを極端に貶めて気分や感情だけを優先させることが全てのよう風潮が見受けられます。

しかし、それには疑問を感じています。

思考も感情も感覚も、それぞれに役割が存在しています。

シンプルになることと、都合よく簡単にすることは違います。

①セルフイメージに気づいてますか？

セルフイメージは無意識下にある自己イメージです。

それが原型となって無意識下では瞬間的にさまざまなイメージが想起されています。

セルフイメージという前提を基にした延長線のイメージです。

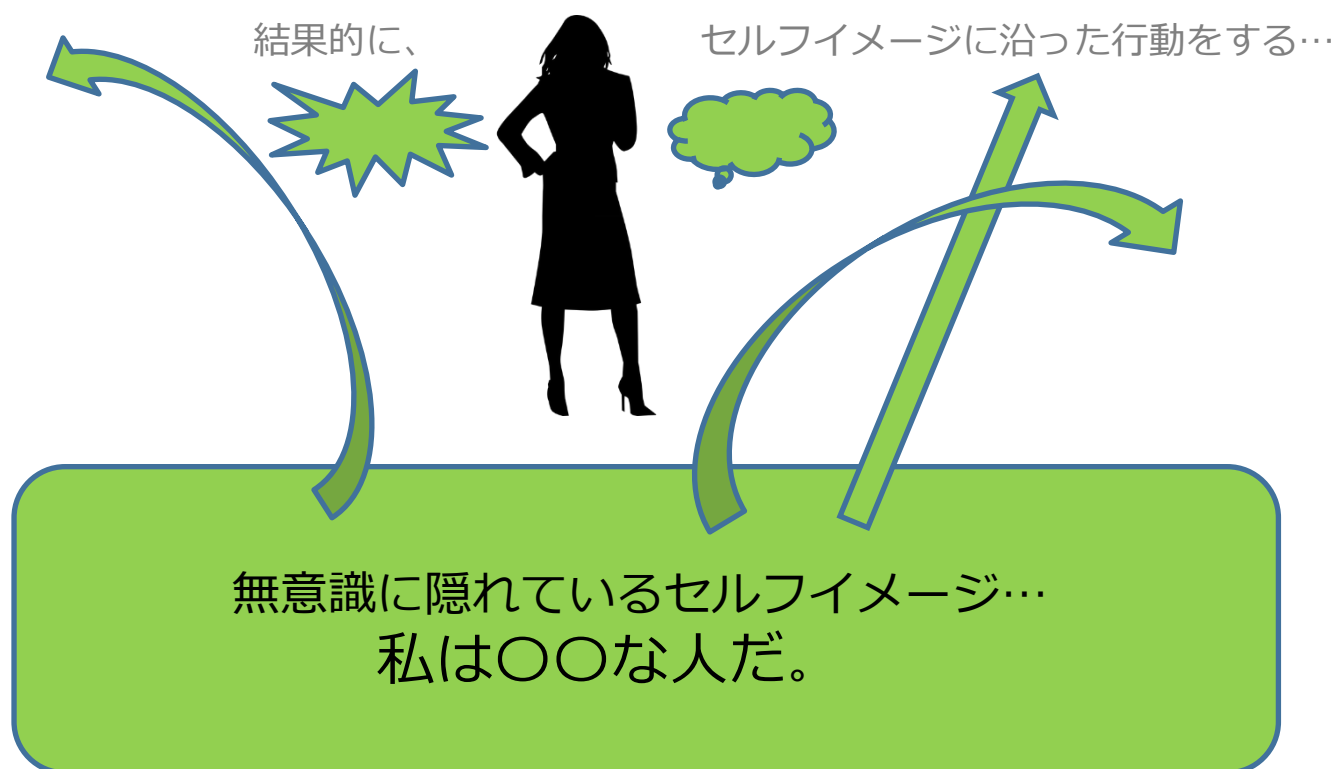
問題は、頭が無意識下で想起されているイメージに気づかないことです。

気づかないままに自動的にイメージが想起されています。

そしてその意識されないままのイメージが、自分の現実体験に大きく影響していることです。

それは、無意識下に存在する「私の物語」の原型です。

人間は、気づかないままにセルフイメージに沿って考えて…



②イメージが現実を創造しています。

ほとんどの人は無意識下で起きている反応的イメージに気づいていません。

それがそこに存在することが見えないままに翻弄されています。無意識下を知覚しようとする発想とスキルがないからです。

例えば、不安になることが多い人はどんなことを無意識イメージとして想起しているのでしょうか？

不安とは心配です。

そしてそれは好ましくない結果のイメージです。

決してうまくいった状態のイメージではありません。

要するに、頭ではうまくゆくことを望みながら無意識下ではうまくいかないことをイメージしているということです。

頭では気づいていなくてもです。

プレッシャーに弱くて緊張してしまう人はどうでしょうか？

失敗する状態をイメージしていることが想像できますよね。

頭では成功したいと考えながらも無意識では逆のことをイメージしています。

そして起きること…

無意識下のイメージ＝想像が創造力として働きます。

瞬間々の反応や行動に影響して無意識イメージに沿った方向へ自分を導こうと働きます。

だから、うまくいかないイメージが強すぎるとうまくいかない体験が多くなります。

失敗ばかりイメージしている人が創造するのは失敗体験です。

食やダイエットで苦しむ人の無意識イメージ例

次は、過食や食べ過ぎに多いパターンを紹介します。

「痩せたい…痩せたい…」と頭で考えている人の無意識下にあるイメージはどうでしょう？

決して痩せている姿ではありません。

ほとんどの場合において太ることへの恐れと否定に注意が向けられているからです。

要するに無意識下に想起されるイメージは「キレイに痩せている

自分」ではありません。

そこに存在するイメージは「痩せてる自分」ではなくて「太ってしまった自分」「太ってる自分」です。

そしてそちらが優先されて現象化されていきます。

起きることは、痩せることを望みながらの過食でありダイエットのリバウンドです。

二つの相反した方向性が矛盾した行動を創り出しています。

無意識システムでは注目していることが実現化されていきます。

「失敗したくない」と頭で考えていても、無意識が注目を集めているのは「失敗」です。

したいであろうが**したくない**であろうが**失敗**です。

決して成功ではありません。



*無意識イメージは、それを肯定していても、否定していても同じように働きます。

どういった理由からそのイメージを想起しているのかが問題なのではありません。

そこにあるイメージが現象化して、次なる体験と出来事を引き寄せています。



セルフイメージとは、自分の現実を創る雛形です。

ほとんどの人は無意識下にある隠されたセルフイメージに気づいていません。

セルフイメージが自分の体験し得る可能性を制限しています。

セルフイメージを基にして想起されたイメージによって共鳴す

④セルフイメージは日々の無意識コミュニケーションが創る

セルフイメージを作り出しているものは何でしょうか？

その原型は、過去の体験から作られた設定 = 観念です。

そしてそれを強化しているのが毎瞬々の自分自身への気づかないままの無意識的なコミュニケーションです。

原型となった過去の設定 = 観念に気づくことでセルフイメージは変えられます。

それが単なる幻想だと気づくからです。

そして意図的な自分へのコミュニケーションを行うことによってセルフイメージは変化していきます。

でも逆に…

自分が自分に対してどんなコミュニケーションをしてしまっているかに気づかなければ…

そのコミュニケーションが自分の体験にどんな影響を与えているかに気づかなければ…

自分を変えることはできません。

自分の行動を変えることができません。

自分の体験する現実を変えることはできません。

気づかないままに「私の物語」を演じ続けることになります。

気づかないままの自分へのコミュニケーションが、
セルフイメージを作り、強化しています。



⑤無意識コミュニケーションが作る「呪い」と「祝い」

何においても不安になるという行為はある意味「自分への呪い」になります。

何故なら不安とは自分にとってネガティブなイメージを想像する行為だからです。

自己嫌悪も同じです。

自己否定も同じです。

自分を責めるという行為は自分を許さないという行為です。

罪悪感も「呪い」になります。

頭では自分を反省する行為と混同してしまうかもしれません。

しかしそれは自分への裁きです。

自分を価値判断して自分自身に償いを求める行為となります。

後悔して過去の行為を責める度に、自分に呪いをかけています。

何故なら、そんな自分は罰を受けなければならないからです。

何らかの償いが必要な人になってしまうからです。

そして、自分を見下す行為も「呪い」です。

自分を貶めて自分の力を奪い価値を下げる行為だからです。

頭で考えると抵抗が起きるかもしれません。

謙虚さや自分を省みることが大切だという考えが疑問を抱かせる
かもしれません。

しかし今お伝えしていることはエネルギーとしての法則性です。

波動が共鳴して現実を創り出していくという法則性の話です。

何を目的としますか？

誰から見ても良い人になることですか？

自分を裁き続けて、責め続ける人生を送ることですか？

もし本来の自分として生きる人生を望むなら…

自己の奥底から生じる創造力が好ましい形で発揮されることを望
むなら…



自分自身に「**祝い**」をかけてあげませんか？

大切な自分を応援するための**祝い**のエネルギーを自分自身に送る
ほうが好ましいと思いませんか？

あなたが本来の自分らしく生きて、心から満足することが人生の
目的であるならば…

誰だってそう思いますよね。

ところが…

それが思うようにはいきません。

実は、何が**祝い**で何が**呪い**かが判別できないからです。

仮に、気づいたとしても**祝い**が実行できないからです。

何故ならば、無意識設定がそれを歪ませているからです。

祝いに見える呪いがあります。
呪いに見える祝いがあります。



無意識システムが見えなければ、
それが見抜けません。
設定に気づいていなければ、
見えていても止められません。

祝いと呪いには、見せかけと反対のものがあります。

ほとんどの人は無意識設定のままの観念を通して見ているせいで
それに気づけません。

また、気づいたとしてもそれを止めるのは容易ではありません。

無意識設定が変わっていないからです。

自己嫌悪も自己否定も、実は無意識コミュニケーションの下手さによって生じています。

誰もそんなことをしたくてやっているわけではありません。

結果的に呪いをかけてしまうようなコミュニケーションを仕掛けてしまっている場合が多いのです。

そもそもの根本にある無意識設定に問題があることに気づいていないからです。

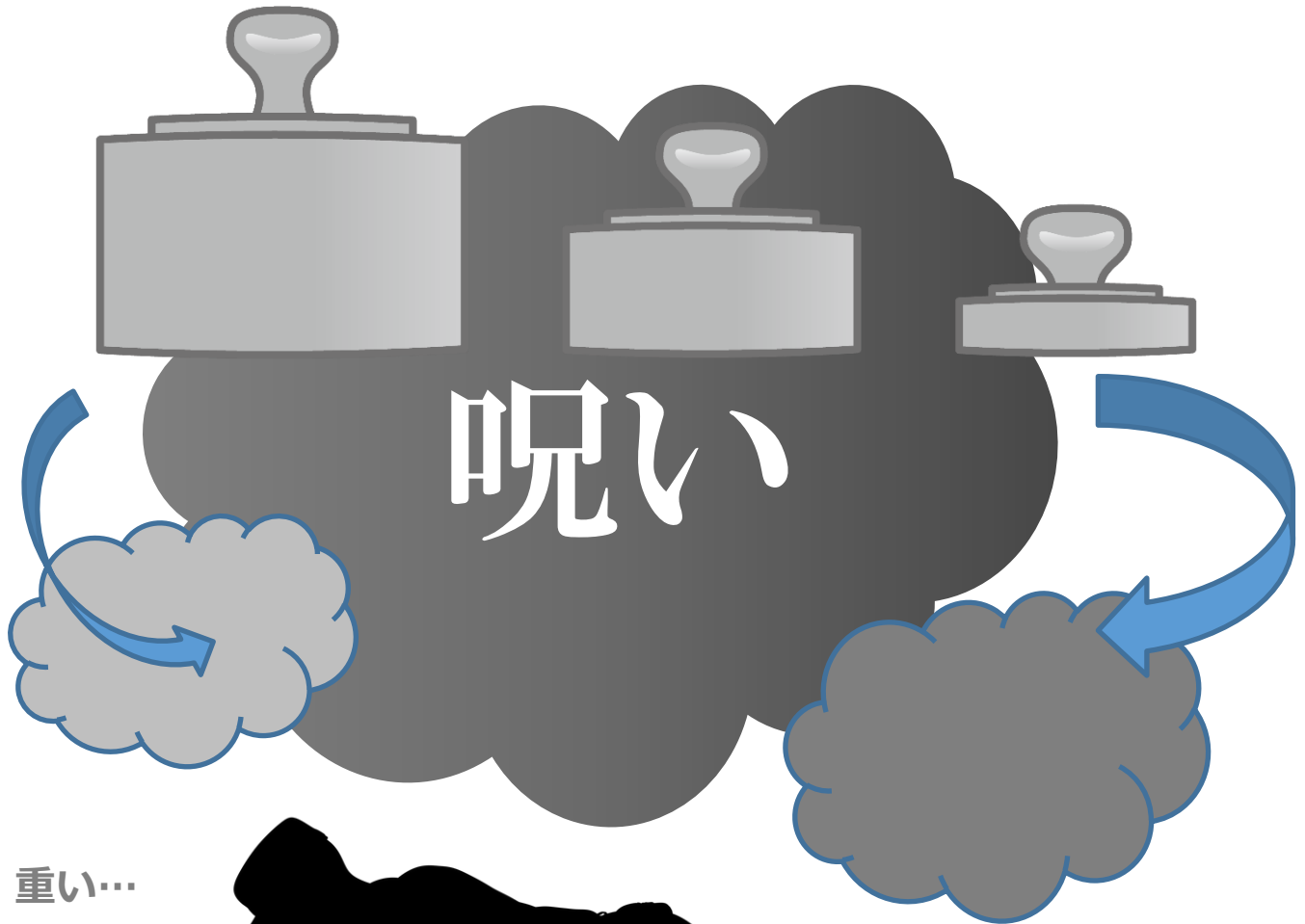
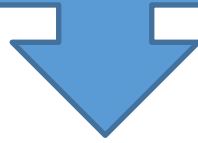
それが当然だと、それが正しいと思ってやっていることが…
実は呪いとなって自分に降りかかっていることに気づきません。

どんな罪悪感も、どんな自己否定も、どんな怒りや憎しみも、
その根本にある無意識設定と観念から生じています。

そして、そもそも無意識設定とは自分が正しいと信じ込んでいるものなのですから、そこに気づかないままに呪いをかけているつもりで呪いをかけ続けている場合がほとんどなのです。

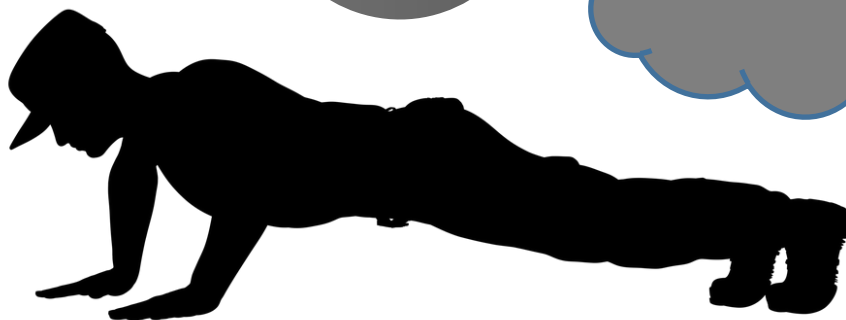
良かれと思って呪いをかける…思い込みと真実は違います。

自分に呪いをかけていることに、
ほとんどの人は気づいていません。



重い...

??



... ???????

... ????

?????

呪いと祝い...

自分の無意識システムへのコミュニケーションは、意識していようが意識してなからうが、そのどちらかに向かって働きます。

祝い 呪い



どちらのループを使いますか？

意識的な無意識コミュニケーションか、

無意識的な無意識コミュニケーションか。

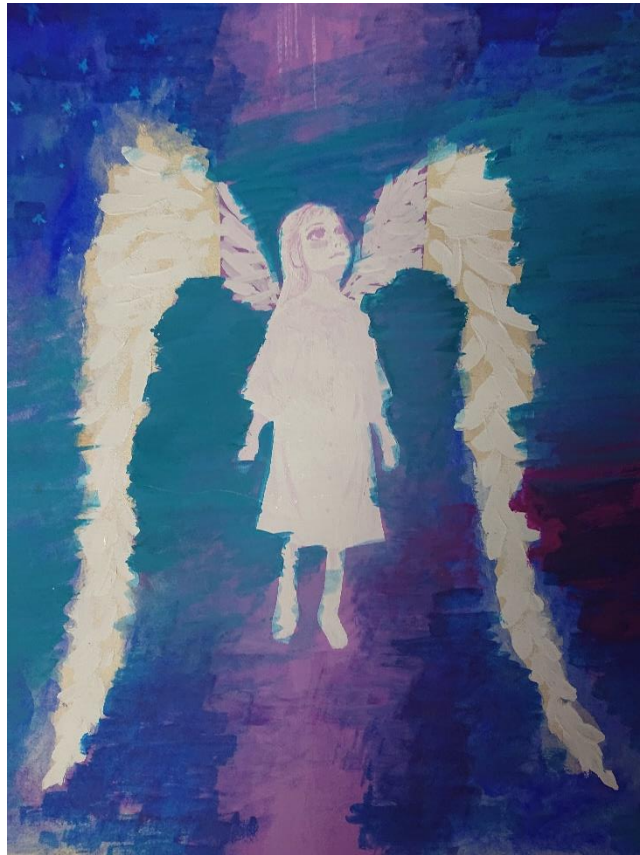
無意識下に隠された二つのことを変えれば…

新しい自分が現われます！

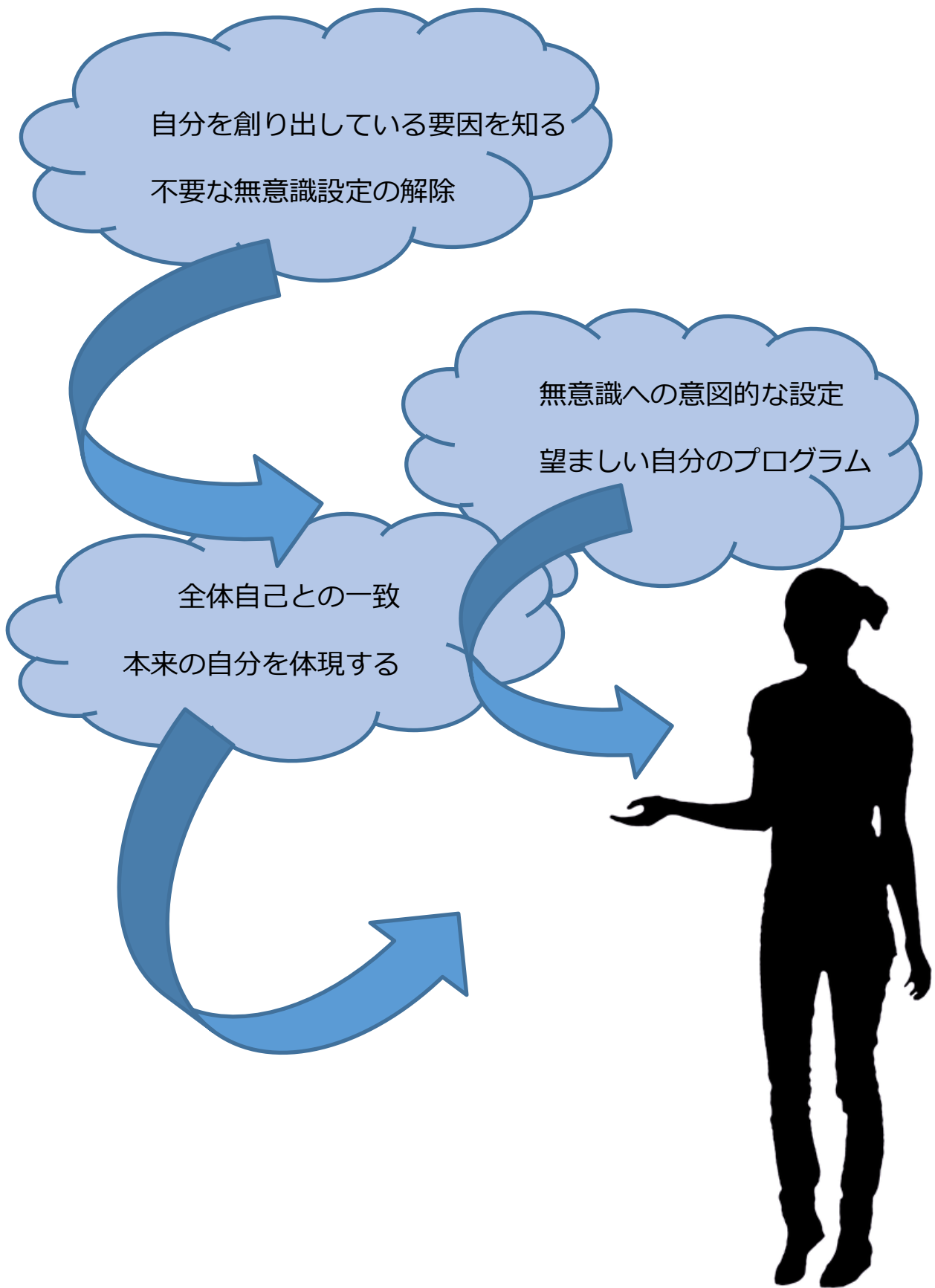
それは…

反応的に連想される物語の原型であるセルフイメージと、

思考の原型となり感情の方向性を決めている無意識設定です。



【自分自身への無意識コミュニケーションの目的】



他人への無意識コミュニケーション

1.人間関係で行われている無意識コミュニケーションに気づく

他人との間に無意識コミュニケーションが使われているのに気づいていますか？

人間は誰でも言葉でのコミュニケーションの何十倍ものコミュニケーションを無意識に行っていることをご存知でしょうか。

ほとんどの人の現実の行動は、その人が口で言ってる通りではありません。

悪気がなくてもそうなってしまいます。

そのつもりでいても現実には違った行動を選択してしまうことは誰にでもあることです。

「あの時こういったのに…」

と、誰かを責めていてもしょうがないことなのです。

自分が知覚している思考と、無意識システムが基となって起きる行動は別なのです。

ほとんどの人にとって自分の無意識システムが頭からは知覚できていないのですから。

その人が口で言っていることと、その人の無意識がアピールしていることは違います。

多くの場合において。

その人の無意識システムが持っている設定と方向性があります。言葉よりもそちらが優先されていきます。

それが観えると他人に対する自分の捉え方が変わります。

それはけして相手を責めるためのものではありません。



他人への理解。

相手への受容性が広がるということです。

自分が見えて他人が見えると、人間関係において対応できる幅が圧倒的に広がります。

さらに重要なのは、

他人からのエネルギーゲームに巻き込まれないということです。

無意識のままに行われているコミュニケーションは、ほとんどの場合において他人から奪おうとするエネルギーゲームか、もしくは他人を支配しようとするコントロールゲームとなります。

無意識のままに自我内欲求を満たすために行われるからです。

人間関係が疲れることがあるのはこういったエネルギーゲームに巻き込まれている場合です。

巻き込まれることで自分のエネルギーが奪われて低下することが疲れの原因です。

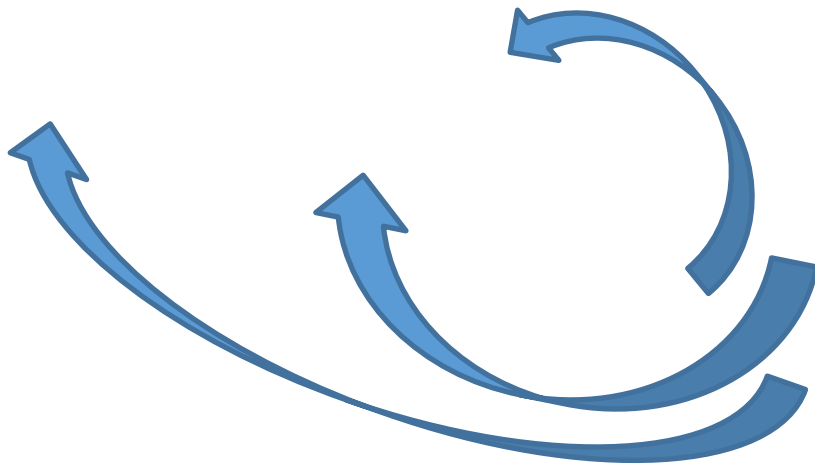
もちろん自分自身が気づかないままにエネルギーゲームを仕掛けていることもあります。

* 実は無意識システムにプログラムされた設定とは、気づかないままに繰り返されてきた他人（親兄弟を含む）との無意識コミュニケーションによって作られています。

エネルギーゲームによって観念が作られています。



エネルギーゲームには…
優劣や損得や嫉妬が使われることがよくあります。
優劣や嫉妬の裏に隠れているのは…
失うことへの恐れです。



親や恋人への依存。
情や怒りによるコントロール。
恋愛や親子間における支配・独占欲・嫉妬、など。

エネルギーゲームは依存と不足感が根本に存在しています。
コントロールゲームは支配と恐れが根本に存在しています。

過食というのは自分自身が気づかない無意識のままに行われているエネルギーゲームの表象であることがよくあります。

拒食などの摂食障害はほとんどの場合において親に対してのエネルギーゲームが根底に存在しています。

職場におけるパワハラは相手の恐れにつけこんだコントロールゲームの場合があります。

こういったエネルギーゲームに巻き込まれないためには、他人のエネルギーゲームを見抜く必要があります。

さらに自分がエネルギーゲームを仕掛けないようにする必要があります。

自分が仕掛けるということは他人のエネルギーゲームと同調することです。

無意識下で行われているコミュニケーションパターンを理解する必要があります。

それが理解できなければ、気づかないままに仕掛け続けて、巻き込まれ続けます。

無意識コミュニケーションを理解することで人間関係におけるエネルギーゲームから自分を守ることが可能となります。

①エネルギーゲーム

どうして人間はエネルギーゲームを仕掛け合うのでしょうか？

それは、無意識下で誰かからエネルギーをもらわなければ生きられないと信じ込んでいるからです。

ほとんどの人が無意識に誰かや何かに依存しようとしています。

そして繰り返します。

他人からエネルギーをもらおうとする無意識行動を。

その結果として、人間関係は非常に疲れる場合があります。

誰かのグチを聞いてあげたことがありますか？

それも何度も何度も。

疲れませんでしたか？

心配ばかりかける家族や友人がいませんか？

かまってちゃんの友人がいませんか？

疲れませんか？

もっと私に注目して～

もっと私を心配して～

もっと私に優しくして～

もっと私のいうこと聞

いて～

もっと私を愛して～～



気づかないままに、

無意識からの叫び声があふれています。

家族にも。恋人にも。会社にも。友人にも…

悪気はなくても、気づいてなくても…

それは間違った無意識コミュニケーションです。

無意識のままにエネルギーを奪おうとしてくる人達があります。
容赦なく奪っていく吸い取り紙のようなタイプの人さえいます。
そしてほとんどの人は無自覚のままに仕掛け続けています。

エネルギーゲームに巻き込まれると自分の生命力が奪われます。
エネルギーゲームを仕掛けているうちは本来の自分エネルギーを
発揮できません。

自他双方のエネルギーゲームを回避してください。

過食やうつ病だけでなく様々な病気がエネルギーゲームの材料と
して使われています。

会社での関係や恋愛のステージにおいて、ありとあらゆる人間関
係において、家族間でさえエネルギーゲームが行われています。

人間関係は気づかないままでの交差する無意識コミュニケーションによって作られています。

気づかないままではゲームに巻き込まれ続けます。

気づかないままではゲームを仕掛け続けます。

自由に生きたければそれをかわすスキルが必要です。

巻き込まれながら生きるのか…

誰かに巻き込まれながら生きることは自分を放棄することです。

自由に自分を生きるのか！ …決めるのはあなたです。

エネルギーゲームはかわせます。
捌くこともできます。



エネルギーゲームにはかわし方が存在しています。

それを捌くことも可能ですし利用することも可能です。

②コントロールゲーム

人は他人を支配したがりです。

そのことで不安を失くそうとします。

そのことで自分の利益を得ようとしています。

また、人は時によって他人に支配されたがりもします。

そのことで逆に依存しようとすることがあります。

そのことで相手にも自分の期待に応えさせようとしています。

よく言われる同調圧力などは集団的なコントロールゲームです。

どちらにしてもそれは健全な関係ではありません。

そこにあるのは**共依存と支配**です。

【よくつかわれるコントロールゲーム…】

怒り・暴力 →相手の恐怖心を利用 等

哀れみ・病気 →情に訴える、同情をかう、注目を得る 等

ムチと飴 →罰と褒美による教育・躾 等

おせじ →ほめ殺し、相手の自尊心等を利用

期待 →期待に応えたいという相手の心理を利用

③親との関係性によって作られたゲーム設定

無意識設定の中で最も気づきづらい設定…

それがストーリーです。

幼少期に親や家族や自分が属したコミュニティとの関係性によって刻み付けられたエネルギーパターンです。

人生において同じようなことが何度も繰り返される。

同じような人間関係を体験してしまう。

それはストーリーを取り込んでいるからです。

自分が親から虐待されてきた人が、気がつけば今度は自分が子供を虐待している。

酒乱で暴力的な父親に苦勞させられたはずなのに、気がつけば酒乱で暴力的な男性と交際してしまっている自分がいる。

貧乏が嫌で嫌でしょうがなかったはずなのに、お金持ちになりたかったはずなのに、気がつけばいつも貧しい自分がいる。

両親が離婚して辛い思いをしたからこそ温かい家庭を望んだはずなのに、気がつけば家庭崩壊してしまった自分がある。

気がつけばそのストーリーを演じている自分があります。

その中のどちらかの役割を演じてしまっている自分がある場合があります。

多くの方は、それが自分の人生体験における基本ゲーム設定として存在していることに気づきません。

それは決して変えようのない宿命ではありません。

ストーリーという設定に創られた運命です。

そして運命は変えられます。



自分を巻き込んだストーリーが再現される
自分が演じる役割も、登場人物が変わっても、
ストーリーの脚本が変わらない…

しかし、もし自分の体験に働き続ける見えない力に違和感を感じ
ているなら…

振り返った時に、人間関係の中で同じようなネガティブ体験を再
現していたとしたら…

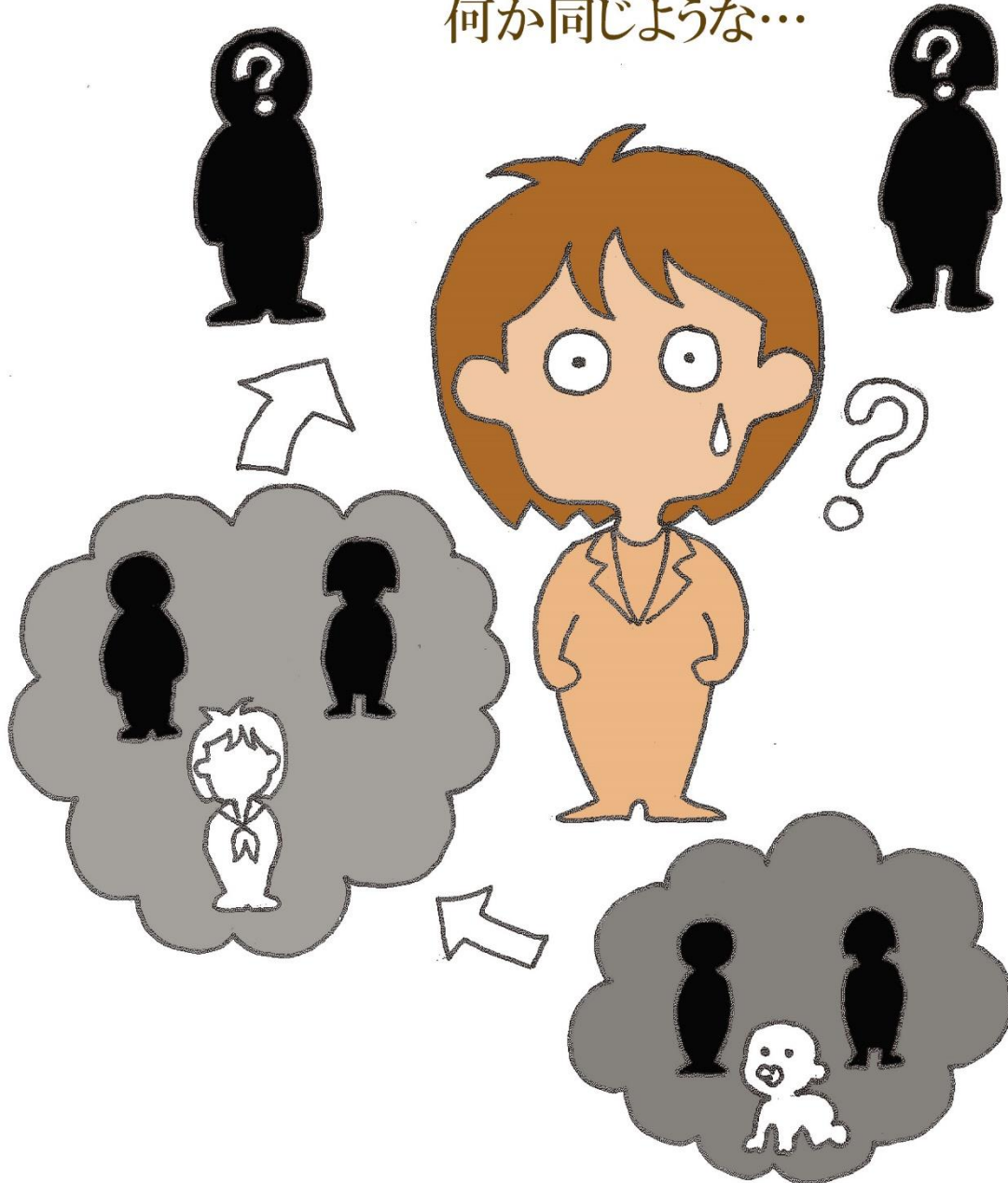
そこに存在するストーリーの脚本を疑ってみてください。

そしてそれがもう自分に不要なストーリーであると思うなら、
新しいストーリーに脚本を書き換えることは可能です。

あれ…？

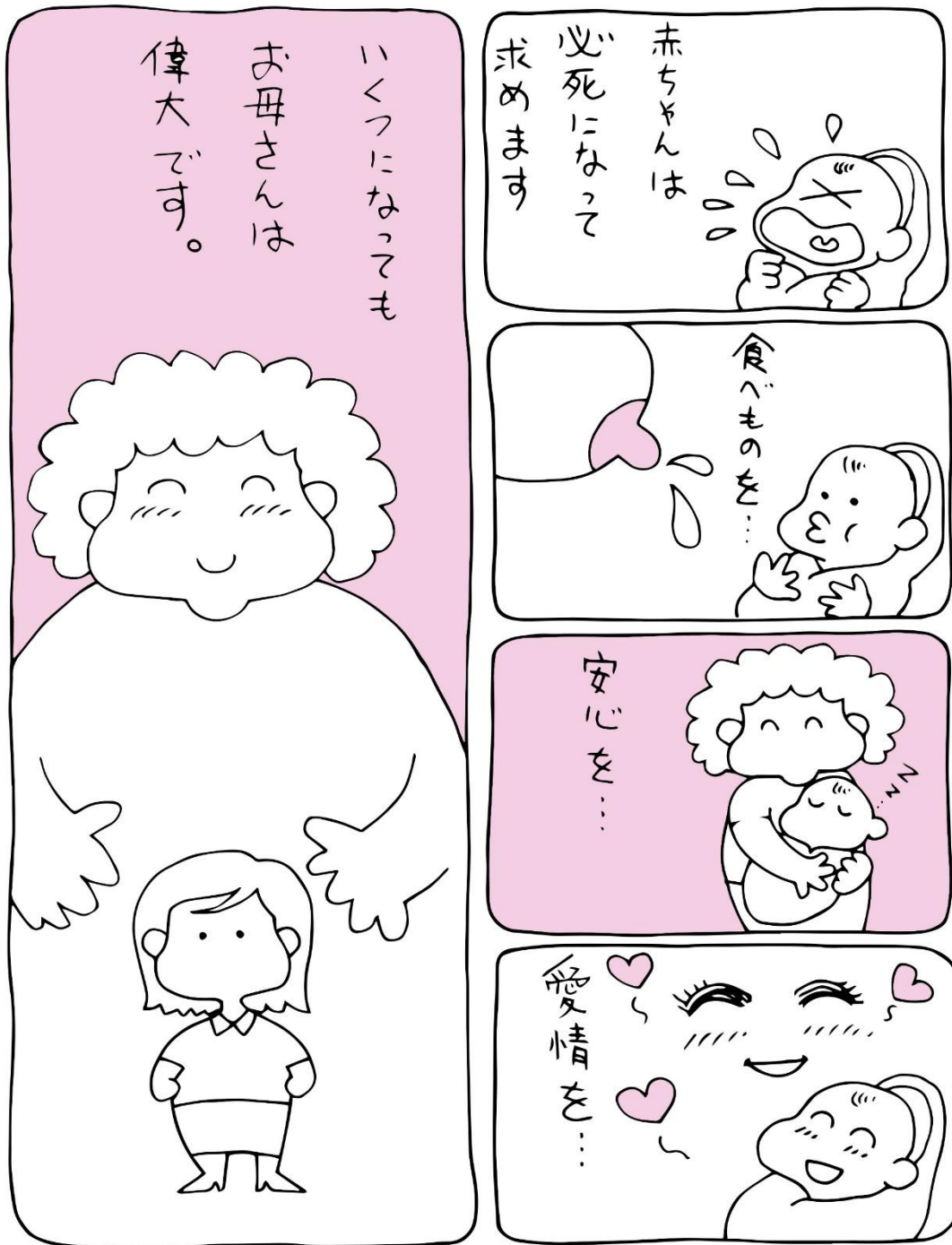
時代が変わっても、登場人物が変わっても…

何か同じような…



ポジティブネガティブを別にして、過去に体験してきた物語のフレームとなるエネルギーパターンが自分を作り上げています。それに気づくには、ストーリーを読み解く視点が必要です。

【おまけ 1.過食や親子関係を改善したい人へ】



過食というのは食べ方の問題や食生活の問題ではありません。
食べられない・食べ過ぎるという行為は、無意識システム内に存在する感情エネルギーを表現するための代替行為です。
無意識システムが整うことで衝動そのものが消え去ります。

【おまけ 2.過食や気分障害を改善したい人へ】



孤独感やさみしさがきっかけとなって食べ過ぎやうつが起きることはよくあることです。

自分の苦しみには必ず他人との関係性が関連しています。体重へのこだわりも他人の目あってのことなのですから。

【おまけ 3.もうひとりの自分】

スイッチが入ったら止まらない…

もうひとりの自分が暴れ出す💧



インナーチャイルド。

過食や極端な食べ過ぎ。

躁鬱などの極端な気分の浮き沈み。

まるで別人格のような突発的な急変。心変わり。

これらは分離意識の仕業です。

すべて無意識システムの中のプログラムバグが原因です。

それは無意識コミュニケーションによって統合可能です。

(分離意識は本講座において取り組む重要な課題です)

無意識システムは魔法ではありません。

だから知っただけ、聞いただけでは何も変わりません。

無意識システムはプログラムによって働くシステムです。

だから、意図的に動かすことが可能です。

それができれば…

自分に魔法と奇跡が起こります。

誰かにすすがる必要はありません。

自分は自分自身で変えられます。

必要なのはそのためのスキルと変えようとする意志だけです。

以上ここまでが【[図解：無意識コミュニケーションの手引書](#)】の前編です。

後編（[他人への無意識コミュニケーション&自己実現のための無意識コミュニケーション](#)）を手に入れたい方は公式ラインより

「[後編希望](#)」というメッセージを送ってください。

後編のダウンロード URL を返信させていただきます。